会報JAMT
JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
発行責任者　宮島喜文
編集責任者　深澤恵治
〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722　FAX (03) 3768-6722
ホームページ https://www.jamt.or.jp

P1～P2　新役員としての抱負［代表理事］
P3 季刊誌『ピペット』に寄せられた感想をご紹介

新役員としての抱負［代表理事］

代表理事　会長　宮島 喜文

令和４年度定時総会に続いて開催された理事会において、代表理事・会長に選任され、６期目を務めることになりました。再任・新任されました役員の方々と会務遂行に誠意を持って取り組んで参ります。

10年前に会長就任し、「日臨技を新生させ、未来を拓く」をスローガンに掲げ、役員・会員の皆様のご支援をいただき、様々な課題解決に取り組んで参りました。そして、本年創立70周年を迎えることとなり、会員数は７万人達成も目前に迫り、医師会など三師会や看護協会、理学療法士協会には及ばないものの中規模の会員数を擁する医療技術職団体として成長してきました。

今年度は当面の３大事業として展開しているタスクシフト、臨地実習、精度保証について、着実に実施するとともに、度重なり流行を繰り返す新型コロナウイルス感染症に対して、国の感染対策に協力して参ります。

一方、今回のコロナ禍の経験を踏まえ、予期しない新たな感染症の出現や地震・水害など天災の発生も鑑み、本会の会務運営には迅速な意思決定や初期対応が求められていることを痛感いたしました。そのため現行の日臨技の制度・組織体制全般を政策渉外・総務や学術・事業の２つ部門に見直しを図り、想定外の事象に対して、機動的に行動できる組織・運営体制を構築に着手します。加えて、初めて会長就任時に取り組んだ未来構想やマスタープランを検証し、次世代人材育成を目指した取り組みも強化して参ります。

我が国は人口減少社会に入り、2040年には社会経済構造が大きく変化し、労働力移動が生じると言われています。更に、第５次産業革命が到来し、単純業務だけでなく、人口知能、ロボットの活用で臨床検査の現場も大きく変貌すると考えられ、「臨床検査技師は無くなる職業」と指摘されることもあります。

このような厳しい時代を生き抜くためには、今から中長期的な制度設計を基に、会員の皆様の総力を結集し、日臨技が我が国唯一の臨床検査技師の職能団体として私達の未来を自らの力で拓いていくしかありません。実現できるか否かは、未来を担う若い世代の会員の意識の高揚と積極的な参加に掛かっています。

会員の皆様においては、この現実を直視していただくとともに、会員としての自覚を高め一層の日臨技活動への参加をお願い申し上げます。

今後の２年間は「10年間の総決算と新な時代への助走へ」と位置付け、代表理事会長としての責務を果たすべき諸課題の解決に向けて真摯に取り組んでまいります。今後も会員の皆様の一層のご協力・ご支援を申し上げます。

代表理事　副会長　長沢 光章

令和４年度定時総会および理事会において４期目の代表理事・副会長に選任されました。宮島執行体制の一員として、そして執行部が一丸となり、従来からの会務運営は継承しつつも、２年以上に渡る苦難な経験、国内外の社会・経済情勢の変化を踏まえ、ウィズ/アフターコロナ時代に対応した会務運営を模索し、取り組んでまいりますのでよろしくお願いいたします。

今期は事業区分を二分し、私は「学術・事業」を担当し、臨床検査精度保証事業、臨床検査精度管理調査事業、日本医学検査学会、支部運営（支部学会、研修含む）、生涯教育、各種認定制度、会誌「医学検査」の出版と各種教本の改訂、国際交流などについて担当専務理事および担当執行理事と共に再構築も視野に入れながら、会員にとって将来を見据えたより良い学術と事業を展開していきます。

特に、新たな精度保証制度や精度管理調査新項目の運用、学会や研修会の形式と経費バランスがとれた開催、支部のあり方と運営、コロナ禍により２年以上凍結されている国際関連事業の再開と国際情勢を見極めながらの臨床検査支援など理事の皆様と取組んでいく所存です。

以上、学術・事業を中心に次世代への継承、都道府県技師会との連携を重視し、30年以上にわたる技師会活動や他学会・他団体とのネットワークを活かしてすすめてまいります。また、臨床検査技師連盟の組織強化と再生に向け、協調と連帯によりすすめて行くべきと考えています。

会員をはじめ関係各位のご理解、ご支援および積極的な参画をよろしくお願いいたします。

代表理事　副会長　丸田 秀夫

新執行体制のもと気が付けば理事７期目を迎え、前期に続き代表理事 副会長を拝命いたしました長崎県の丸田秀夫でございます。これまでの経験を踏まえ、円滑な日臨技の運営とともに、臨床検査（技師）の益々の発展のために注力してまいりますのでよろしくお願いいたします。 今期は全体の業務を二分して両副会長がそれぞれを統括する体制となっており、私は政策渉外・総務を担当します。

政策渉外事業においては政策要望・法規・診療報酬・職能研修（タスクシフト/検体採取関連）・臨地実習等への対応が主要な事業となります。臨床検査技師の社会的な立場や役割の礎となる法令等の整備に取り組むとともに、臨床の場で必要とされる臨床検査技師の育成を強化し、職能教育のさらなる充実を進めてまいります。喫緊の課題としては、2024年４月からの医師の時間外労働規制の導入をはじめとする、医師の働き方改革に対して、臨床検査技師の成すべき役割について啓発を進め、臨床検査技師による現場実践を広めていきたいと考えています。

総務事業では内部統制の強化、健全な財務運営等を念頭に職能団体として盤石な組織基盤を構築し、会員ニーズに合致した技師会となるように努めてまいります。また、情報化時代において、広報・情報伝達は重要な要素となりますので、時代に則した手法を活用してさらなる充実を図って参ります。

２年半に及ぶCOVID-19の蔓延により、さまざまな制約の中で会の運営となりましたが、社会的に臨床検査（技師）が注目されるとともに、多くの学びを得ることができたと考えています。withコロナが進められる中で臨床検査の専門家として何ができるのか、会員の皆様と模索していきたいと思います。以上、社会環境、医療情勢が激変する中で臨床検査（技師）のフィールド拡大と、将来へ向けての継承のために微力ではありますが、会務を遂行していく所存でございます。会員の皆様のご理解、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

当会では国民の皆様に臨床検査技師の存在をもっと知っていただくため『季刊誌　ピペット』を年４回発行しています。

2022 春号（vol.35）にも読後感想として、たくさんの応援メッセージをいただきました。

医療現場で働く会員の皆様にも励みにしていただきたく、寄せられたメッセージをいくつかご紹介いたします。

- コロナ発生以降、臨床検査技師の方々のご苦労に頭が下がります。いつもありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。（神奈川県・男性）
- 医師・看護師同様に深夜や休日にも働いてくださる臨床検査技師や医療関係者の方々に感謝しています。（富山県・男性）
- 臨床検査技師の方々にお世話になっていたことを改めて知る機会になりました。（愛媛県・女性）
- 検査結果によって早期に対策を立てる力になっていることを改めて確認できました。（兵庫県・男性）
- 超音波検査の際、検査技師さんの優しい声かけで安心して検査を受けられました。（東京都・男性）
- 子どもが進路を時期になったら、こんな仕事もあるよと教えてあげたいと思います。（神奈川県・女性）
- 検査前にリラックスさせるのが上手な検査技師さんがいて、とても有難いです。検査の際、その技師さんに会えるのを楽しみにしています。（愛知県・女性）

『季刊誌ピペット』を配布いただける施設を募集しています。冊子・送料は無料です。イベント等での単発の配布も承ります。

ご協力いただける方は右のURLまたはQRコードから「配布協力施設登録申込用紙」をダウンロードし、ご記入の上、当会事務局までFAXまたはメールでお申込みください。

https://www.jamt.or.jp/books/pipette/

Fax: 03-3768-6722

mail: pipette@jamt.or.jp

（編集後記）令和４年度日臨技定時総会が開催され、役員改選により新しい執行体制がスタートしました。コロナ禍で県外への移動が制限されていましたが、私も２年５か月振りに関東に出向き、モニター越しにしかお会いしていなかった皆さんと直接会ってお話することができ、直接会うことの大切さを感じたところです。制限が緩和されたためか新型コロナウイルスの感染者が急増していますが、基本的な感染対策を遵守し乗り越えていきましょう。（花牟禮）